

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

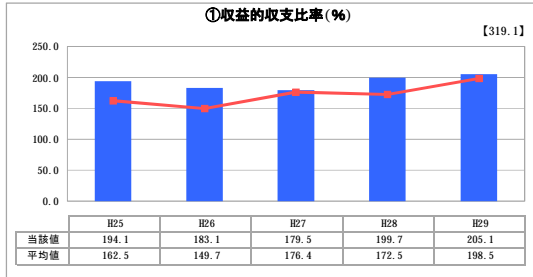
大阪府高槻市 高槻市営弁天駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A1B2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	その他駐車場	立体式	38	

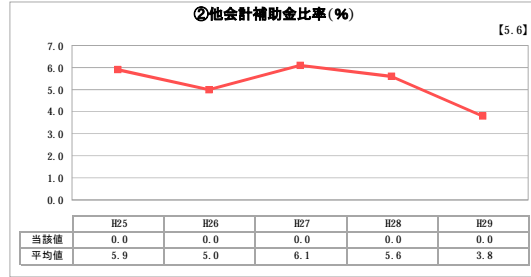
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m <sup>2</sup> )
無	無	7,052
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
310	300	代行制

グラフ凡例
■ 当該施設値(当該値)
— 類似施設平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

## 1. 収益等の状況

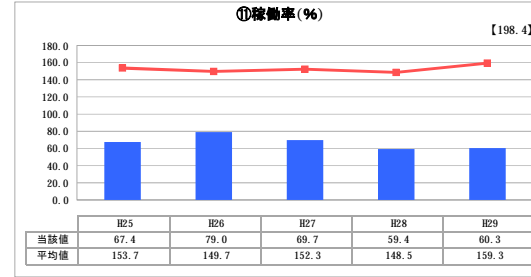


「経常損益」

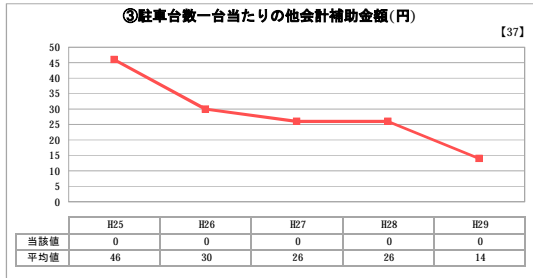


「他会計補助金割合」

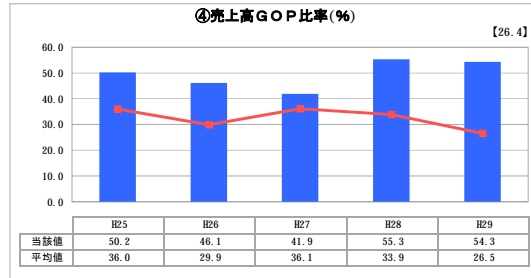
## 3. 利用の状況



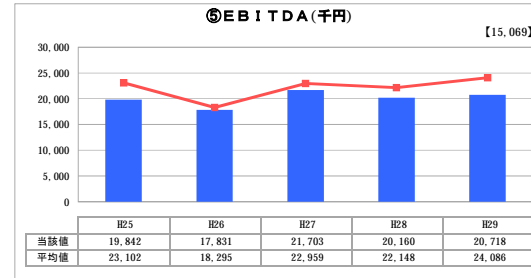
「施設の効率性」



「他会計補助金額」



「売上高に対する営業総利益」



「減価償却前営業利益」

## 2. 資産等の状況

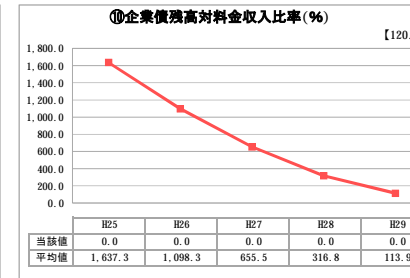


「施設全体の減価償却の状況」

⑦敷地の地価(千円)	164
⑧設備投資見込額(千円)	2,382



「累積欠損」



「債務残高」

## 分析欄

1. 収益等の状況について  
当該施設は黒字経営が続いている。また、修繕を最小限にするなど営業コスト圧縮により、売上高GOP比率が類似施設平均値を大きく上回っている。一方で、EBITDAについては当該施設の稼働率が低く、それに伴い収益性も低いことが要因となり、類似施設平均値を下回っていると考えられる。  
なお、平成27年度の売上高GOP比率については、耐震診断に係る委託料の計上により一時的に減少している。

2. 資産等の状況について  
当該施設敷地の地価については、周辺と比較しても大きな差はあまりない。  
また、今後の設備投資についても大きな修繕は見込んでいないが、当該施設は耐震基準を満たしておらず、耐震改修をする場合には多額の費用を要する状況にある。  
なお、立地状況としては、近隣に大学病院が立地している。

3. 利用の状況について  
当該施設の稼働率は、類似施設平均値や他の高槻市営駐車場3施設の稼働率を大きく下回っていることから、駐車需要は低く、収容台数が過大である。また、利用者の大部分は定期利用が占めている。なお、近隣にはコインパーキングが複数ある。

## 全体総括

当該施設の経営状況は黒字経営であり、他の類似施設と比較して大きな差はない。鉄道駅からも徒歩圏内の場所に立地しているが、利用者の大部分を定期利用が占めており、一時利用としての駐車需要は低いといえる。  
また、当該施設については、耐震基準を満たしていないことに伴う耐震改修や建替えに多額の費用を要する状況にある。  
今後は、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」の策定に取り組む中で、施設のあり方の検討を進めていく。

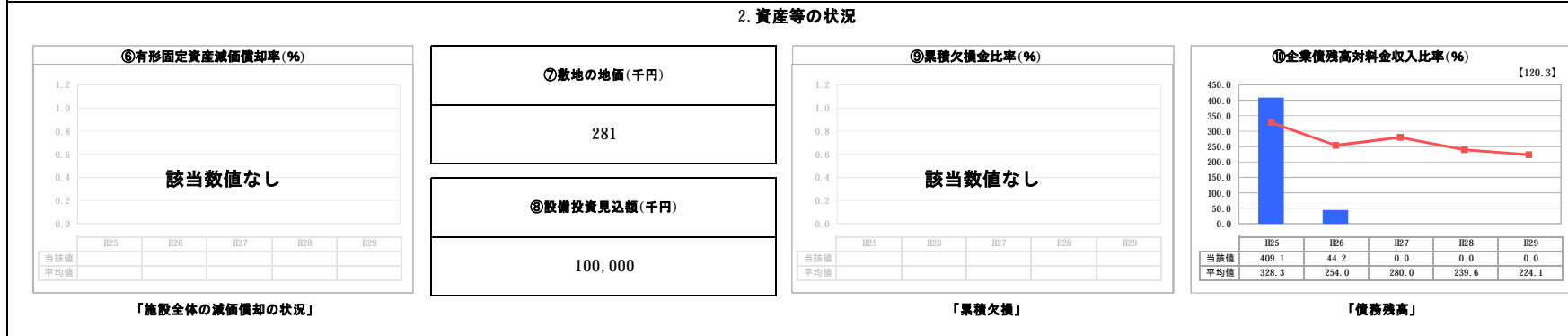
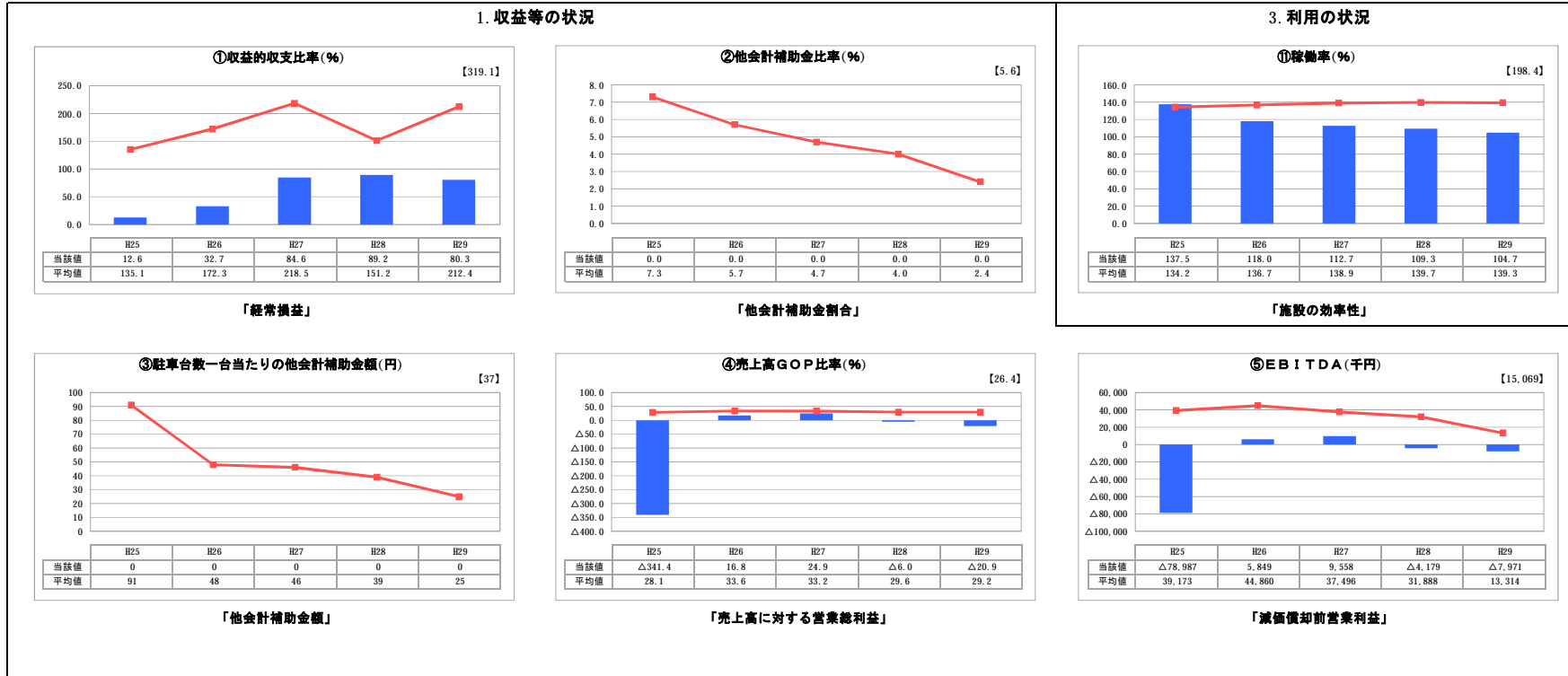
# 経営比較分析表（平成29年度決算）

大阪府高槻市 高槻市営高槻駅南立体駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A1B1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	附置義務駐車施設 その他駐車場	立体式	22	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m <sup>2</sup> )
駅	無	2,250
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
150	300	代行制

グラフ凡例
■ 当該施設値(当該値)
— 類似施設平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均



## 分析欄

1. 収益等の状況について  
 当該施設は、歳入の約半分が特定の商業施設への回数券販売に依存している。  
 また、京都市や大阪市などの大型商業施設のパークアンドライド駐車場としてもPRするなど歳入の確保に努めてきたが、依然として収益的収支比率が100%を大きく下回っており、赤字経営となっている。  
 なお、平成25年度については、機械装置のハイライフ化による修繕費用の増加により、売上高GOP比率及びEBITDAのマイナス幅が大きくなっている。

2. 資産等の状況について  
 当該施設は平成26年度に企業債を完済したが、機械装置は法定耐用年数の10年を超過しており、従前は保守点検に基づきその都度修繕を行ってきた。修繕コストの平準化を目的に平成28年度より機械装置の長期修繕計画を策定したところ、今後は毎年少なくとも約1,000万円の修繕コストが必要ことが判明している。

3. 利用の状況について  
 当該施設は、稼働率が100%を超えてはいるものの、類似施設平均値を下回っていることから、他施設に比べて駐車需要が低いと考えられる。  
 また、近隣にいくつかの商業施設が立地していることから、利用の大部分は一時利用が占めている。

## 全体総括

当該施設の現在の経営状況としては、利用台数が減少傾向であることに加え、今後は設備の維持補修に伴う修繕コストの増加が懸念される。今後の経営改善策として、機械装置の老朽化による修繕コストを平準化するための長期修繕計画を策定したが、今後も赤字経営が見込まれ、本市の他3施設と比べても厳しい経営状況である。そこで、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」の策定に取り組む中で、周辺の駐車需要を分析し、施設のあり方を検討していく。

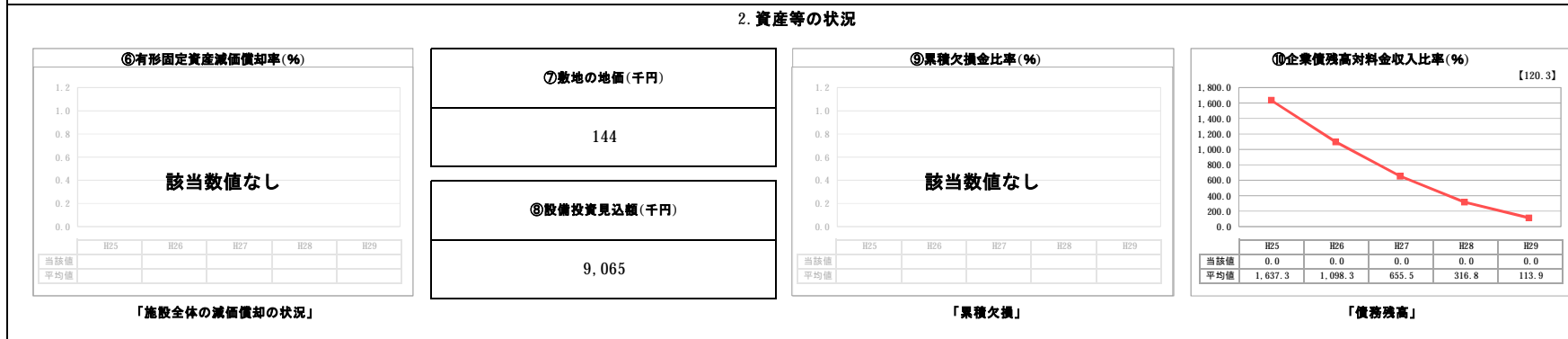
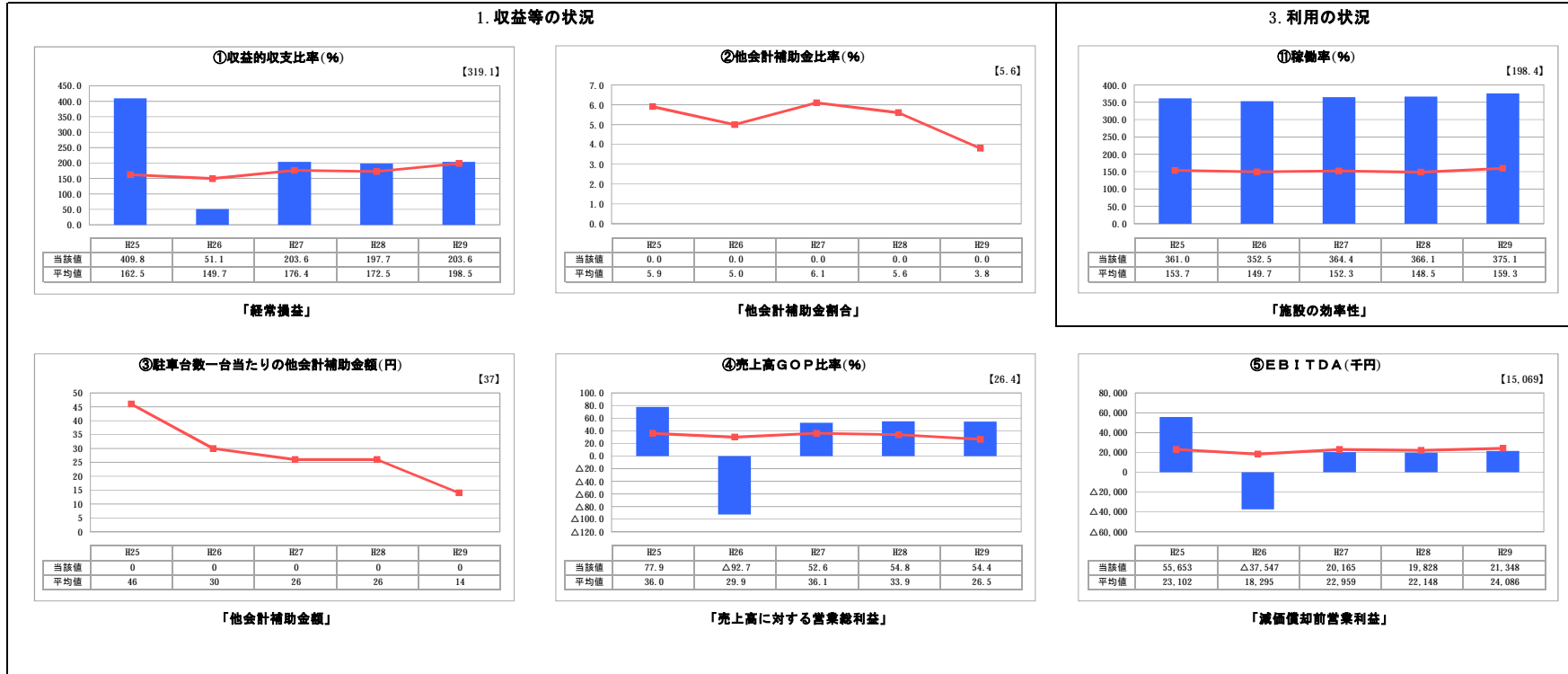
# 経営比較分析表（平成29年度決算）

大阪府高槻市 高槻市宮桃園町駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 1 B 2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	その他駐車場	立体式	26	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m <sup>2</sup> )
公共施設	無	3,737
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
177	300	代行制

グラフ凡例
■ 当該施設値(当該値)
— 類似施設平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均



## 分析欄

**1. 収益等の状況について**  
 当該施設は、市役所に隣接しているという立地条件から来庁者による短時間利用が多い。  
 また、平成26年度以降については、料金体系を変更したことにより、平成25年度と比べ、収益的収支比率、売上高GOP比率及びEBITDAが減となっている。  
 なお、平成26年度に関しては、屋上防水工事による工事請負の影響によって収益的収支比率、売上高GOP比率及びEBITDAが著しく減少している。

**2. 資産等の状況について**  
 当該施設敷地の地価については、周辺と比較しても大きな差はあまりない。  
 また、設備投資については、平成26年度から平成28年度に躯体の維持修繕（屋上防水や舗装等）を実施している。

**3. 利用の状況について**  
 当該施設は稼働率が類似施設平均値を大きく上回っており、この要因としては市役所に隣接しているという立地条件から、来庁者による短時間利用が多いことによるものである。

## 全体総括

当該施設の経営状況としては黒字であり、概ね全国の類似施設と同程度の経営状況である。当該施設の利用の大部分は市役所への来庁者であり、稼働率に関しては、平日の市役所の開庁時間帯は多くの利用がある一方で、土日祝など市役所の閉庁日には利用が少ない。  
 また、設備投資については、平成26年度から平成28年度に躯体の維持修繕（屋上防水や舗装等）を実施していることから、今後、大きな修繕を見込んでいない。  
 立地条件や利用状況から今後も駐車場としての存続が望ましいことから、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」の策定に取り組む中で、収支状況を注視しながら、施設のあり方を検討していく。

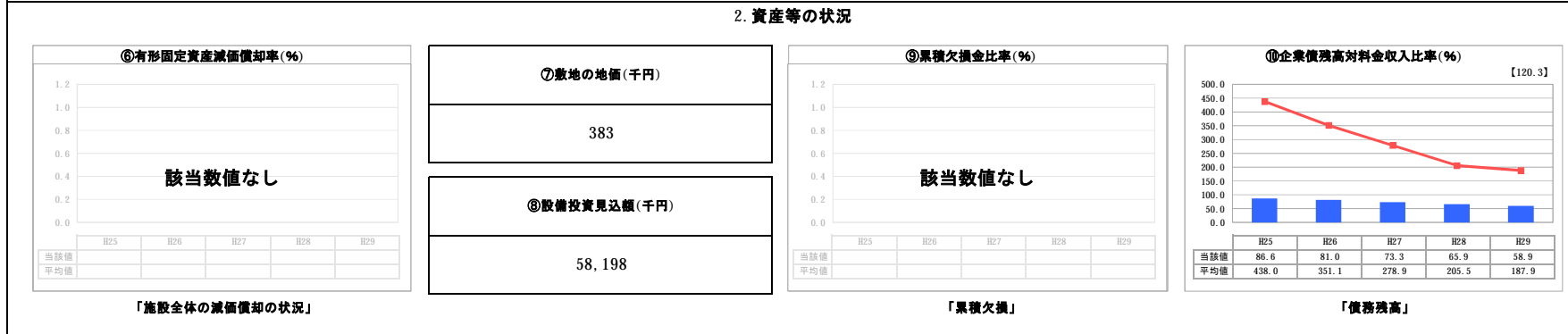
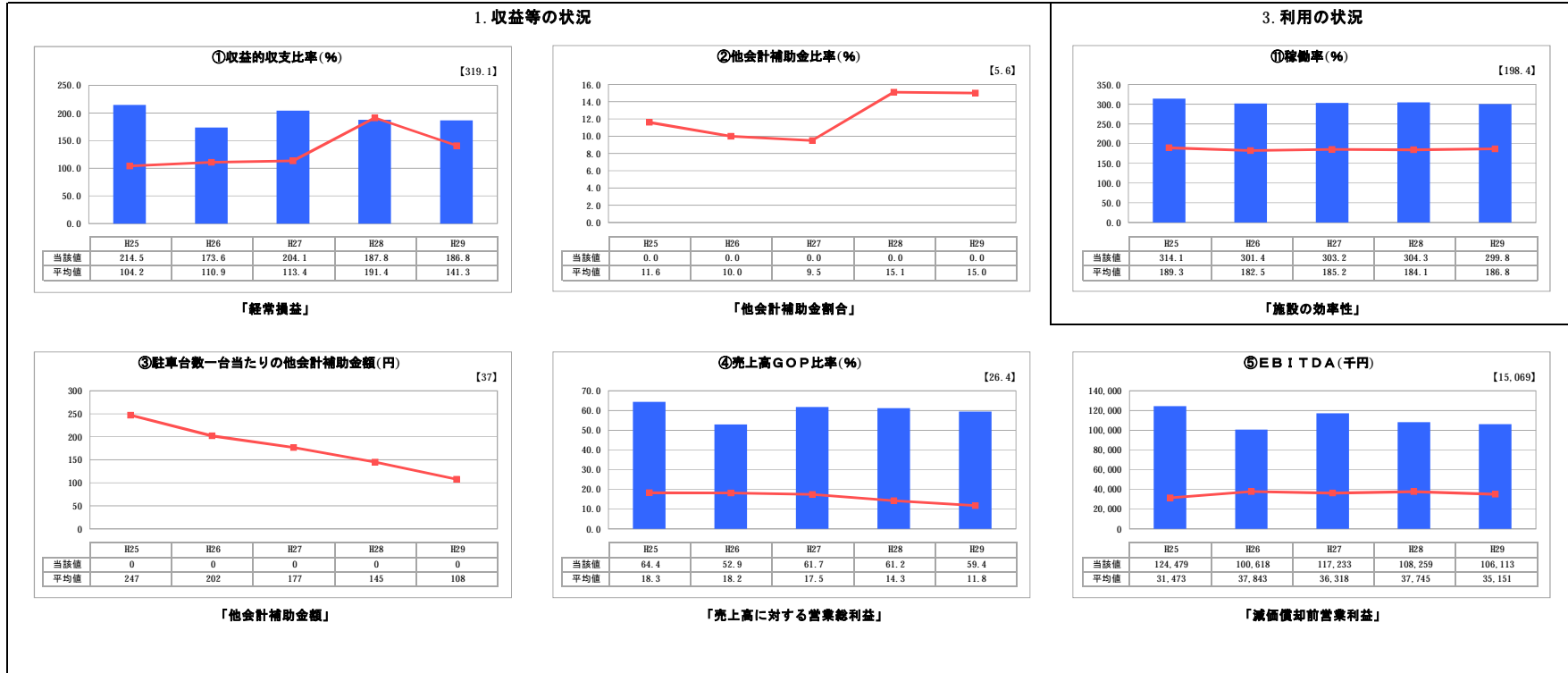
# 経営比較分析表（平成29年度決算）

大阪府高槻市 高槻市営高槻駅北地下駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	その他駐車場	地下式	13	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m <sup>2</sup> )
商業施設	無	16,263
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
441	300	代行制

グラフ凡例	
■	当該施設値(当該値)
—	類似施設平均値(平均値)
[ ]	平成29年度全国平均



## 分析欄

1. 収益等の状況について  
当該施設は、収益的収支比率、売上高GOP比率及びEBITDAが類似施設平均値よりも高く、収益性の高い施設である。

2. 資産等の状況について  
経年劣化により駐車場スラブにクラックが発生しているため、それらの補修を事後保全的に修繕していく。  
また、換気設備についても老朽化していることから、計画的に修繕を行うことで長寿命化を図っていく。

3. 利用の状況について  
当該施設は、稼働率が類似施設平均値を大きく上回っており、この要因としては駅や商業施設と直結した場所に立地しているという条件によるものが大きいと考えられる。  
また、このような立地条件からも駐車需要が高く、継続した運営が求められる。

全体総括  
当該施設は黒字経営であり、全国の類似施設と比較しても収益性の高い施設である。利用者の大部分は近隣商業施設や駅の利用客であることから駐車需要も高く、今後も駐車場機能が必要である。  
また、支出面では、設備の維持補修や修繕積立金、公債費の償還に毎年一定の額を要する。それら支出面を勘案しても当該施設は収益性が非常に高い状況にあるが、市営である必要性は高くはないことから、今後は将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」の策定に取り組む中で、収支状況を注視しながら、施設のあり方を検討していく。